



好学愛知
自律敬愛
質実剛健

鶴鳥イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edupref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

3月の行事予定

3月	
1 火	第62回卒業式
2 水	
3 木	
4 金	
5 土	
6 日	
7 月	全校朝会 入学学力検査場設営
8 火	入学学力検査(1日目) 国立大学中期日程試験(3/8~)
9 水	入学学力検査(2日目)
10 木	
11 金	
12 土	悠学講座⑩ 国立大学後期日程試験(3/12~)
13 日	
14 月	学年朝会
15 火	学校安全の日
16 水	合格者発表
17 木	合格者集合
18 金	
19 土	
20 日	
21 月	春分の日
22 火	
23 水	
24 木	
25 金	終業式 大掃除
26 土	
27 日	
28 月	
29 火	離任式 合格体験を聞く会
30 水	
31 木	

祈願

教頭 前田 光久

2月某日。今にも降り出しそうな空模様の中、我々は梅ヶ淵観音へ参拝した。本校進路指導課による合格祈願である。国立大学2次試験出願を終えたこの時期に、生徒の合格はもろろんのこと、3学年担任団が心一つに最後まで走り抜く決意が伝わる恒例行事である。

日没前の肌寒く薄暗い時刻に車3台に分乗して学校を出発。駐車場から続く坂道を歩き、水で手を清めると最後の石段を登る。登り切ると目の前に拝殿が現れる。各自蠟燭を燭台に灯す。我々以外の参拝者もおらず、ひっそりと静かな空気の中に、めいめいが生徒一人ひとりの顔を思い浮かべながら祈りを期す。静かな、そして心引き縮まる時間である。

ここは正式名を名突山 梅ヶ淵観音院といひ、真言宗の寺院である。甲突川河畔の小高い丘の上であり、岩を彫り込んで作られた磨崖仏の観音像が繊細で美しい表情を見せている。定かではないが、一説に因れば江戸時代の石工岩永三三郎によるものとも言われる。学問、商売、縁結びなど多くの御利益があるとされ、市内外から大勢の参拝者が訪れる場所である。

私自身、幼い頃に親に連れられて来て以来、幾度も訪れてきた。学生の頃は正月帰郷の折、初詣といえは梅ヶ淵であった。実家から近い寺社には他にないのだが、気がつけば事あるごとに足を運んでくる。おそらくは私の勝手な印象なのだろうが、ここには何かしら市内他所とは異なる雰囲気がある。岩に彫られた磨崖仏の佇まいもさることながら、参道沿いの小川や木々の全てが何とも言えない「ここの独特の静謐さを醸し出しているように思ふ。確かに、多くの神社仏閣はたとえ真中にあっても、そこは周囲から切り離された

空間であり、神や仏を祀るに相応しい場所となつてはいるが、ここ梅ヶ淵には、拝殿へと続く階段の上下に、願掛けの「お百度石」。石の上にはステンレス製の敷き板が敷いてあり、おそらく受験生の身内の中には、ここでお百度を踏んだ方もいるのではないだろうか。心の中で合格を願ひながら、一段一段登る姿が目には浮かぶようである。

さて、いよいよ二次試験本番である。この一月余り、個別試験へ向けた教師との火花を散らす戦いが続いた。その戦いの終りに近づくと、時期、受験生の顔つきは本番を目前に控えた表情に変わるといふ。自身自身をस्टイックなまでに追い込み、ぎりぎりのところを走り抜けた者だけがみえる顔だといふ。受験生の諸君、鶴丸に入学以来、この3年間で磨き上げた自分を、全て出し尽くして欲しい。今我々にできることは、全力で駆け抜けて来た君たちが必ずや報われるようにとここで祈るだけである。文字通り、最後の神頼みである。

拝殿の壁に数多くの絵馬が奉納されている。受験生やその家族の願いが力強く書き込まれている。そんな絵馬の一つに、ある卒業生の名前があった。現役時代に涙をのんだ彼は、捲土重来を期して今年再挑戦する。絵馬に書かれた彼の並々ならぬ決意に、我々は想いを込めてエールを送った。朗報を期待したい。

1・2年生進路講演会

2月9日(水)の7限、東京大学の名誉教授で東京大学総長室顧問を務めていらつしやる浅島誠先生をお招きし、1・2年生対象に進路講演会が開かれた。

浅島先生は、ご自身の中学生時代の生物学との出会いから、有名な生物学者の歴史的な発見がなされるまでの過程さらには、現在の地球の置かれていく状況や先進国の中で日本の置かれていく特徴的な問題を、豊富な話題によって分かりやすく話してくださいました。

先生は、ご自身の研究で、イモリの細胞の分化を促す誘導物質を発見するまでに、膨大な失敗の繰り返しがあったこと、最近報道されたウナギの卵の発見のニュースも、発見までに40年の発見が必要だったことなどを通して、信念を持って地道に研究すること、自然を先生として情熱を持って取り組むことの大切さを教えてくださった。

また、日本の若者は、諸外国と比べて、問題意識は高いが、主体的・積極的実践のレベルが低い傾向があり、具体的には、刺激的な仕事にはつきたくない、友達との関わりは少ない方がよいなど、自分が成長する機会が失われている状況にあるとおっしゃった。

最後に、潜在的な力のある若者は努力しなければならず、今、気力・体力・知力を養うことが一生の財産となり、若いときに切磋琢磨し協力した友が生涯の友となるのである。「文武両道」とあるは勉強すると「鶴丸の行動規範」である。「Fort Othello」によって、人間関係や社会を変革してほしいというメッセージを我々に下された。

第16回 校内弁論大会

2月14日(月)の7限、1・2年生の代表6名による校内弁論大会が行われた。クラス審査や学年予選を経て選出された弁士は、それぞれの生活や経験に即して、主張したいことを論理的に訴えた。

内容は多岐に渡り、鶴丸生らしの定義、個人主義による家族の変質、集団内の多様性、高校生が抱える無為への不安感など、聞かざる者の視野を広げるレベルの高いものであった。

審査の結果1位に選ばれた25Rの秋元審さんは、「出会う」という演題で、出会いによって得られるものを「一種」と表現し、出会いや人間関係は自分の都合のいいようにはならないが、主体性によってお互いの内面と向き合うことで発見があり、それが自分を成長させるのだということを論じて、聴衆の共感を得ていた。生徒会報には、秋元さんの他に、2位の17R松清かなさん、3位の23R小林英太郎君の感想も掲載されているので、生徒・保護者の皆さんは、そちらも参照してください。

第62回卒業式

本日、第62回卒業式が行われた。学舎での最後の校歌を歌った3年生には、どのような想いが去来したであろうか。「学ぶもの」を、しく直く、新たな世界で己を彫むことを卒業おめでとう。

2月25日(金)26日(土)に、国立大学の個別学力試験前期日程が行われた。高期志と強い意志を持って、3年間懸命に努力してきた3年生の全員が、目標を実現して、日本の将来の一翼を担うことを祈っている。

記念庭園の梅

